（様式１）

**一般社団法人日本外傷学会**

**外傷専門医認定申請書**

西暦　　　　　　年　　　月　　　日

　　日本外傷学会

　　専門医認定委員会　御中

日本外傷学会専門医制度規則および同施行細則にもとづき、外傷専門医として
申請いたします。

 氏　名 ：

 生年月日 ：　西暦　　　　　年　　 　　月 　　　　日

 医籍登録番号 ：　　　　　　　　　　　号

 医籍登録年月日 ：　西暦　　　　　年　　　 　月　　　　 日

 施設名 ：

 所属科・部門 ：

 施設所在地 ：〒　　　－

 施設電話番号 ：（　　　　　）-（　　　　　）-（　　　　　）

 施設FAX番号 ：（　　　　　）-（　　　　　）-（　　　　　）

　　　メールアドレス　　：

　　　入会年月日：　　　　　　　　　　　　　　会員番号：

（様式２）

**履　歴　書**

|  |
| --- |
| 最近３カ月以内の写真貼付(５×５cm) |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　男

氏　名：　　　　　　　　　　　　　　　　　　女

現住所：　〒　　　－

最終学歴：　　　　　　　　　　　　大学

西暦　　　　　　年　　　月卒業

|  |
| --- |
| 職　　　歴 |
|  年　　月(注1） | 施設に番号(1,2,3・・)記入 | 事　　　項 |
|  |  |  |

専門医制度施行細則第4章第12条1)の基本領域のうち、専門医を取得している学会名にレをつけてください。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 日本医学放射線学会 |  | 日本救急医学会 |  | 日本形成外科学会 |
|  | 日本外科学会 |  | 日本整形外科学会 |  | 日本脳神経外科学会 |
|  | 日本麻酔科学会 |  |

その専門医名と認定番号を記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 専門医名 | 専門医認定番号 |
|  |  |

**注１：年は西暦で記載してください。**

（様式３）

**診療実績　Ａ表：診療症例一覧表**

Ａ-I、　Ａ-II、　Ａ-III表（エクセルで作成された表になります）

以下、ホームページに掲載のエクセル表を使用してください。

（様式４-１）

**診療実績　Ｂ‐I表：重症外傷報告書**

**AIS ４以上が同時に２部位以上の症例（５例）**

**Ａ表の症例番号**

**診療期間（西暦）**　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

（様式４-２）

**診療実績　Ｂ‐I表：重症外傷報告書**

**AIS ４以上が同時に２部位以上の症例（５例）**

**Ａ表の症例番号**

**診療期間（西暦）**　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

（様式４-３）

**診療実績　Ｂ‐I表：重症外傷報告書**

**AIS ４以上が同時に２部位以上の症例（５例）**

**Ａ表の症例番号**

**診療期間（西暦）**　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

（様式４-４）

**診療実績　Ｂ‐I表：重症外傷報告書**

**AIS ４以上が同時に２部位以上の症例（５例）**

**Ａ表の症例番号**

**診療期間（西暦）**　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

（様式４-５）

**診療実績　Ｂ‐I表：重症外傷報告書**

**AIS ４以上が同時に２部位以上の症例（５例）**

**Ａ表の症例番号**

**診療期間（西暦）**　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

（様式５-１）

　　　**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　　**頭頚部**

**A表の症例番号**

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-２）

　　　**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　　**顔面**

**A表の症例番号**

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-３）

　　　**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　　**胸部**

**A表の症例番号**

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-４）

　　　**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　　**腹部**

**A表の症例番号**

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-５）

　　　**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　　**骨盤**

**A表の症例番号**

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-６）

　　　**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　　**四肢**

**A表の症例番号**

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-７）

　　　**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　　**脊椎・脊髄**

**A表の症例番号**

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-８）

　　　**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　　**泌尿・生殖器**

**A表の症例番号**

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-９）

　　　**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　1.頭頚部　2.顔面　3.胸部　4.腹部　5.骨盤　6.四肢　7.脊椎・脊髄　8.泌尿・生殖器（いずれかに○）

**A表の症例番号**

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-10）

　　　**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　1.頭頚部　2.顔面　3.胸部　4.腹部　5.骨盤　6.四肢　7.脊椎・脊髄　8.泌尿・生殖器（いずれかに○）

**A表の症例番号**

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式６）

**診療実績　Ｃ表：診療経験数一覧表**

Ｃ表（エクセルで作成された表になります）

以下、ホームページに掲載のエクセル表を使用してください。

（様式７）

(研修修了証明書番号　　　)注3

外傷研修修了証明書

氏名：

上記の者は当施設において

西暦　　　　年　　　月より　　　　年　　　月までの　　　年　　ヵ月

研修を行い終了したことを証明します。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年　　　　月　　　　日

施　設　名：

指導医師名(自署のこと) 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印

（指導医師が他の施設に異動している際は、その者の証明であることが望ましい。）

指導医師が有する専門医・指導医の種類と認定番号を記載してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 種類 | 番号 |
| 専門医 |  |  |
| 指導医 |  |  |

所属長職名

（外傷研修施設の所属科・部の長）

所属長氏名(自署のこと)　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印

■上記研修施設が次のいずれにあてはまるかレをもって示してください（注１、２）。

１．外傷専門医研修施設　(施設認定番号：　　　　　　　　)

 ２．基本領域の研修施設

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 日本医学放射線学会 |  | 日本救急医学会 |  | 日本形成外科学会 |
|  | 日本外科学会 |  | 日本整形外科学会 |  | 日本脳神経外科学会 |
|  | 日本麻酔科学会 |  |

注１：外傷専門医研修施設であれば、基本領域の施設のチェックは必要ありません。

注２：外傷専門医研修施設または基本領域の研修施設いずれにも該当しない施設は１.２の記入はありません。

注３：研修した施設が複数の場合は、その施設毎に提出してください。

　　（様式８）

**外傷研修施設一覧表（注１、２）**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 施設名 | 研修期間 西暦で記入 | 実行研修期間 | 修了証明書 |
| （○○病院○○科） | （開始年月～終了年月） | （月で記入） | 番号（注３） |
| 外傷専門医研修施設 |  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
| 基本領域の研修施設 |  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
| その他施設 |  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  |  | 月 |  |
|  | 氏名： |  | 合計（月） |  |

注１：外傷に関する研修を行った施設を記入してください。

注２：外傷専門医研修施設での研修が５年に満たない場合には、基本領域の施設や、その他の施設での研修歴を記入して下さい。

注３：「修了証明書番号」は、様式７の研修修了証明書番号を記入してください。

（様式９）

**日本外傷学会学術集会参加証明書**

日本外傷学会学術集会参加記録

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 開催回 | 会長名 | 開催日 | 参加章番号 |
| １ | 第　　　回 |  | 西暦　　　　年　　月 |  |
| ２ | 第　　　回 |  | 西暦　　　　年　　月 |  |
| 　３ | 第　　　回 |  | 西暦　　　　年　　月 |  |
| ４ | 第　　　回 |  | 西暦　　　　年　　月 |  |
| ５ | 第　　　回 |  | 西暦　　　　年　　月 |  |

１）直近５年間での最低３回の日本外傷学会学術集会参加を証明してください。

２）参加記録に記入するとともに、参加章または参加章のコピーを参加章貼付表（別紙・次頁）に貼付するか、

　 発表者等は抄録集のコピーなど参加を証明するものを添付してください。

 （様式９別紙）

**日本外傷学会学術集会参加証明書（参加章貼付表）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 参加章貼付 |  | 参加章貼付 |

|  |  |
| --- | --- |
| 参加章貼付 | ・参加章または参加章のコピーを別紙（次頁）に貼付するか、発表者等は抄録集のコピーなど参加を証明するものを添付してください。 |

 (様式10)

**学術活動実績表**

１)**学術論文**（注１）

(１) 日本外傷学会雑誌

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 添付資料番号 | 題　名 | 刊行年・巻・頁-頁 | 筆者 |
| 　 | 　 | 　 | 筆頭共同 |
| 　 | 　 | 　 | 筆頭共同 |
| 　 | 　 | 　 | 筆頭共同 |

(２) その他の学術論文

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 添付資料番号 | 題　名 | 雑誌名・刊行年・巻・頁-頁 | 筆者 |
| 　 | 　 | 　 | 筆頭共同 |
| 　 | 　 | 　 | 筆頭共同 |
| 　 | 　 | 　 | 筆頭共同 |

注1：外傷診療に関する論文で、査読により採用された直近の筆頭論文１編以上を含むこと。「手引き」参照のこと。学術論文の別刷あるいは全文コピーを添付すること。

２) **学会・研究会発表**（注２）

(１) 日本外傷学会

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 添付資料番号 | 開催回 | 年月日 | 演題種別 | 演題名 |
| 　 | 　 |  | シンポ・パネルワーク・一般 | 　 |
| 　 | 　 |  | シンポ・パネルワーク・一般 | 　 |
| 　 | 　 |  | シンポ・パネルワーク・一般 | 　 |

(２) その他の学会・研究会

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 添付資料番号 | 学会名 | 年月日 | 演題種別 | 演題名 |
| 　 |  | 　 | シンポ・パネルワーク・一般 | 　 |
| 　 |  | 　 | シンポ・パネルワーク・一般 | 　 |
| 　 |  | 　 | シンポ・パネルワーク・一般 | 　 |

注２：外傷診療に関する発表で、筆頭者として３題以上、その内１題以上は日本外傷学会において発表したもの。直近５年間におけるもの。プログラムの表紙・目次・抄録を1セットにして添付すること。

(様式11)

**ＪＡＴＥＣ研修コース**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 開催年月 | コース名 | 開催場所 | 参加・講師・主催の別 |
| 　 | 　 | 　 | 参加・講師・主催 |
| 　 | 　 | 　 | 参加・講師・主催 |
| 　 | 　 | 　 | 参加・講師・主催 |
| 　 | 　 | 　 | 参加・講師・主催 |
| 　 | 　 | 　 | 参加・講師・主催 |
| 　 | 　 | 　 | 参加・講師・主催 |

|  |
| --- |
| ※　参加・講師・開催を証明するものを添付すること（注１） |

注１：参加証明証は日本外傷診療研究機構で発行していただけます。

(様式12)

**災害活動実績表**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 開催年月 | 訓練・研修コース名 | 開催場所 | 参加・主催の別 |
| 　 | 　 | 　 | 参加・主催 |
| 　 | 　 | 　 | 参加・主催 |
| 　 | 　 | 　 | 参加・主催 |
| 　 | 　 | 　 | 参加・主催 |
| 　 | 　 | 　 | 参加・主催 |
| 　 | 　 | 　 | 参加・主催 |

|  |
| --- |
| ※　参加・開催を証明するものを添付すること |

（様式13）

**外傷専門医推薦書（注１）**

 氏　名　：

 施設名　：

 所　属　：

上記の者は私が指導した、あるいはよく知る者であり、履歴書、外傷専門医診療実績および

研修終了証明書を詳細に確認した結果、私の責任をもって外傷専門医に推薦いたします。

西暦 　　年 月 　日

施設名　：

部　署　：

専門医氏名：　 　　　　 　 　 　　印

専門医番号　：

注１：申請時の所属施設が日本外傷学会の外傷専門医研修施設である申請者は外傷専門医１名の推薦書を提出してください。それ以外の所属施設からの申請者は外傷専門医３名の推薦書を提出してください。

（様式14）

**自己チェックリスト**申請者氏名（自著）

□様式1～14がすべて揃っている。

□様式1及び2について、すべての項目が記入され、写真が貼付されている。

□医師免許証（写）が添付されている。

□様式3（A-Ⅰ～Ⅲ表）に関し、「日本外傷学会専門医診療実績表の作成について2020」（Word）と「記載例」（Excel）を参照して、正しく記載した。

A-Ⅰ表について

□全症例についてISSとPsが記載されている。

□「脊椎・脊髄」と「泌尿器」の外傷について、適切に抜き書きされている。

　　 □来院時心肺停止症例と多発外傷症例について、〇印で示してある。

　　 □責任者印が押印されている。

A-Ⅱ表について

　　 □必須手技と「参加した診療」について、適切に〇と△で示されている。

　　 □B-ⅠまたはⅡ表に使用した症例に関して、右欄に〇印がされている。

A-Ⅲ表について

　　 □必須手技のうち「助手も可」である４項目について、術式が記されている。

□様式4（B-Ⅰ表）及び様式５（B-Ⅱ表）に関し、「日本外傷学会専門医診療実績表の作成について2020」（Word）と「記載例」（Excel）を参照して、正しく記載した。

□全ての症例に関し、AIS full codeが記されている。

□全ての症例に関し、日本外傷学会臓器損傷分類2008が記されている。

□全ての症例で自らが行った必須手技にチェックがあり、その内容が適切に示されている。

□全ての症例で、重要な損傷を示す適切な画像を添付した。

　 □B-Ⅱ表では全ての部位(頭部、顔面など)の損傷について、用紙に従い適切に記されている。

□様式8について、研修施設名、研修期間、施設区分（外傷専門医研修施設、基本領域研修施設等）などを正しく記入した。

□様式9～12について、それぞれの内容を適切に記入するとともに、それぞれを証明できる書類に関して「外傷専門医認定申請の手引き」を参照して、全て正しく添付した。

□様式13について、「外傷専門医認定申請の手引き」を参照して適切な書類を添付した。

注）本用紙は、PC上で☑（チェック）として印刷しても良いし、このまま印刷して手書きでチェック（✔）を入れても良いが、上段の氏名欄は自著でなければならない。